しずおか遺産
SHIZUOKA HERITAGE

① 関係市町	伊豆市、河津町、熱海市、伊豆の国市、伊東市

② タイトル

（ふりがな）	ぶんがくのせいちいずとおんせん～いやしをもとめたぶんごうたち～

文学の聖地「伊豆」と温泉　～癒しを求めた文豪たち～

③ ストーリーの概要

伊豆の湧き立つ湯の香り、四季の移ろいで表情を変える山々、渺漠たる海は、多くの文人・墨客を引きつける。伊豆を訪れた文豪の名を連ねるだけでも、日本文学の歴史となる。伊豆に逗留し、名作を生み出した文豪も多く、伊豆が舞台となった作品もある。

文豪が心を癒し作品を生み出した旅館、様々な作品に描かれた情景は、今なお各地に残る。川端康成の名作「伊豆の踊子」は、その代表例である。作品が生まれた当時のままに残る旅館を発ち、天城路をたどれば、そこには作品に描かれた「天城越」の世界が広がる。

石積みの旧天城トンネル
（伊豆市を彩る写真コンテスト入賞作品）

川端が逗留した湯本館の外観

④ 代表連絡先

担　当	伊豆市教育部社会教育課		
電　話	0558-83-5476	FAX	0558-83-5480
E-mail	bunka@city.izu.shizuoka.jp		
住　所	〒410-2592 静岡県伊豆市八幡 500-1		

東アジア文化都市 2023静岡県
Culture City of East Asia 2023 SHIZUOKA

ストーリー

○湧き立つ湯の香り

伊豆は、古くから出で湯の地であった。熱海市の走湯温泉跡では、温泉が沸き出す様子を体感できる。また、近くにある走湯権現（伊豆山神社）には、歌人相模が百首歌を奉納しており、伊豆の温泉の歴史は、遅くとも平安時代には確実に遡る。江戸時代には熱海から将軍家に温泉が献上されており、現在も、伊豆の各地で温泉は人々を癒している。

湧き立つ湯の香り、四季の移ろいで表情を変える山々、渺漠たる海は、多くの文人・墨客を引きつけた。坪内逍遙、夏目漱石、芥川龍之介、太宰治、三島由紀夫、井伏鱒二など伊豆を訪れた文豪の名を連ねるだけでも、日本文学の歴史となる。伊豆に逗留する中で、名作を生み出した文豪もおり、その中には伊豆が舞台となった作品もある。時代が移り行く中で、文学に描かれた伊豆の情景は、人々の心に焼き付き、文学だけではなく、映画、アニメ、歌謡曲等、様々な作品で、今なお伊豆は舞台となっている。

○伊豆に残る文人の足跡

文豪が心を癒やした建物、様々な作品に描かれた情景は、今なお各地に残る。熱海市の起雲閣では、舟橋聖一、武田泰淳、太宰治が執筆活動を行い、山本有三・志賀直哉・谷崎潤一郎の対談が行われた。熱海市の阿豆佐和気神社大クス（来宮神社大クス）は、坪内逍遙に『役の行者』の着想を与え、函南町と熱海市にまたがる十国峠は、古くは源実朝が沖に浮かぶ初島を歌に読み、太宰治、高山樗牛が富士山の眺めを絶賛した。熱海市内には、坪内逍遙の別荘「双柿舎」や高山樗牛が滞在した「野村塵外荘」が残る。伊東市には、温泉街の近くに詩人木下杢太郎の生家が残る。伊豆の国市には、伊豆長岡温泉のいづみ荘に、武者小路実篤が滞在した部屋が残る。伊豆市の修善寺温泉には芥川龍之介が滞在した「新井旅館」や、夏目漱石が療養に訪れた菊屋の一部が「虹の郷」に移築され、資料館として公開されている。

起雲閣（熱海市）

尾崎紅葉の金色夜叉、井上靖のしろばんば等、伊豆を舞台とした作品の中でも、現在の伊豆市を訪れた川端康成が滞在中に生み出した「伊豆の踊子」は、伊豆で生まれ、伊豆を舞台とした名作の代表例と言えよう。作品が生まれた当時のままに残る旅館を発ち、天城路をたどれば、そこには作品に描かれた「天城越」の世界が広がる。

木下杢太郎記念館（伊東市）

○『伊豆の踊子』の誕生

大正７年（1918 年）の秋、傷ついた心と体を癒すため、一人旅で伊豆を訪れた 19 歳の学生川端康成。この頃、東京から比較的近い温泉地である伊豆は、東海道線や全国初の道路隧道として天城トンネル（天城山隧道）が開通し、「天城越え」をする下田街道（三島市～下田市へ至る街道）ルートは多くの人々が往来し賑わいを見せた。このような時代背景の中、学生川端は、伊豆の旅で踊り子一行に出会い、川端を代表する文学作品のひとつである『伊豆の踊子』が誕生した。

いづみ荘実篤の間（伊豆の国市）
（いづみ荘 HP から引用）

○『伊豆の踊子』からはじまる文学の聖地化

川端は、生涯この地を愛した。その理由は、地元の人々とのふれあいにある。幼少期をこの地で過ごした作家の井上靖の家族との交流では、井上家（現、上の家）で囲碁を打ち、ヤマメを御馳走になった。

この地を愛した川端は、『伊豆の踊子』以外にも多くの文学の足跡を伊豆に残した。執筆中の川端を慕って梶井基次郎、宇野千代といった多くの作家が訪れ、この地の旅館に滞在し、川端は、宿の主人に「文士がこれだけここを訪れるのは僕のおかげだね。」と語る。文人たちは温泉場を結ぶ「湯道」を通り各旅館や共同湯などを行き来した。「湯ヶ島文士村」さながらの地となった背景には、広く文化を育てる気概を持つ温泉旅館経営者の存在は大きい。特に川端が常宿としていた「湯本館」や「福田家」は、当時の建物のまま営業が続いており、川端が滞在時に必ず使用した部屋もそのままに、自筆の色紙などが残されており、目にすることができる。伊豆市の道の駅「天城越え」にある伊豆近代文学博物館には、当地ゆかりの作家に関する貴重な資料などが展示され、生原稿も見ることができる。「川端康成」をはじめとする多くの作家と関わりを持つ伊豆は、「日本近代文学の聖地」と言えるだろう。

○天城トンネルの開通と踊子歩道

伊豆半島の南北を屏風のように遮る急峻な天城山は、交通の難所となっていた。明治 37 年（1904 年）の天城トンネルの開通は、特に伊豆半島の南部の人々の悲願だった。天城トンネルは、現存する国内最長の石造トンネルで、当時の高い建設技術を物語る貴重な近代土木遺産でもある。

春の新緑、夏のトンネル内部に滴り落ちる冷たい雫、秋の紅葉、冬の天井に下がる長いツララ、移ろいゆく天城山の豊かな自然と調和するトンネルは、踊り子一行が歩いた当時と変わらない姿である。

徒歩や馬車で往来していた街道も、大正５年（1916 年）にはバスが運行し、地域はさらに活気づいた。踊り子一行が歩いたのは、この頃である。当時、険しかった道も、現在は、ハイキングコース「踊子歩道」として整備され、スギやブナ等の木々に覆われたつづら折りの歩道沿いには『伊豆の踊子』の文学碑や川端のレリーフをはじめ、文学作品の舞台にもなっている滑沢渓谷があり、浄蓮の滝や河津七滝、二階滝、平滑の滝を始めとする大小さまざまな滝、谷間のわさび田等、踊り子一行が歩いた頃と変わらない風景が残る。滑沢渓谷に聳える、天城の太郎杉は、天城の森の恵みを象徴する山中最大の巨木である。

井上靖旧居（伊豆市）

「湯本館」川端が滞在した部屋
（伊豆市）

「福田家」川端が滞在した部屋
（河津町）

旧天城トンネル
（伊豆市・河津町）

雨上がりの踊子歩道（伊豆市）

浄蓮の滝とわさび田（伊豆市）

七滝の初景滝と踊子像（河津町）

伊豆のわさび

川端や井上の作品の中に登場する豊かな自然は、伊豆ならではの食を育んだ。天城山のもたらす清冽な水を活かし、山中の渓谷には、石組みのわさび田が連なる。その栽培方法は世界農業遺産にも認定されている。わさびをたっぷりと使った「わさび鍋」や「わさび丼」は、地元ならではのわさびの楽しみ方である。

わさびを育てた豊富で良質な水は、川となり山を駆け下りる。半島中央部を流れる狩野川は、友釣り発祥の地とも言われ、鮎釣りが盛んであり、鮎の一夜干しや甘露煮のほか、鮎うるかとよばれる塩辛も名産となっている。伊豆の旅館の中では、わさび料理や、鮎料理が欠かせない魅力的なおもてなしとなっている。

○文豪の足跡を辿るたびと伊豆文学賞

伊豆の風景は、遥かな大地の営みが創り上げ、文学作品によって彩られてきた。とりわけ川端や井上は、この地の人情と風土を題材とした作品を多く残した。後年、川端は『伊豆の踊子』に天城山の風景や自然を描写しなかったことを第一の不満として語っていることは、川端がこの地の風土に対する愛着が窺えるエピソードである。伊豆をこよなく愛した川端の『伊豆序説』には「天城越えこそは伊豆の旅情」とも書かれている。文豪も堪能した伊豆の温泉と食文化を旅館で体験し、地域に残る文学碑を巡り、今なお残る当時の旧街道と美しい渓谷を散策しながら、天城トンネルを抜ければ、明るい南国の空の下、本物の踊り子一行に出会えるような気分になるだろう。

伊豆では「伊豆文学フェスティバル」や「伊豆文学まつり」、「『伊豆の踊子』読書感想文コンクール」、「坪内逍遥忌記念祭」、「尾崎紅葉祭」、「杢太郎祭」などの様々な文学関連のイベントも開かれ、文化伝承と創造による地域づくりに取り組んでいる。さらに、静岡県では、『伊豆文学賞』を設け、県の風土や地名、行事、人物、歴史などを題材にした文学作品を募集し、入賞作の表彰式を伊豆を含めた県東部で開催するなど、新たな文学や人材の発掘を行っている。伊豆の旅館・温泉から新たな作品を生み出し、新たな文豪として名を連ねるのは、伊豆を訪れたあなたかも。

冊子になった伊豆文学賞受賞作品

しずおか遺産
SHIZUOKA HERITAGE

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
①	ゆもとかん 湯本館	未指定 (建造物)	明治５年創業 踊子が玄関で踊っているのを川端が階段から眺めていた宿。川端が長期逗留し『伊豆の踊子』原稿の執筆も行われ、その部屋を「川端さん」と呼び大切に残している。 【訪れた文士】川端康成、尾崎士郎、宇野千代、若山牧水、広津和郎、萩原朔太郎など	伊豆市
②	おちあいろう 落 合 樓	国登録 (建造物)	明治 14 年創業（現：落合楼村上） 川端が旅館の庭を訪れたり、旅館の２階の客を眺めたりしていた。現在も宿泊することができる。 【訪れた文士】島崎藤村、田山花袋、木下杢太郎、北原白秋など	伊豆市
③	いのうえやすしきゅうていあと 井 上 靖　旧 邸 跡	未指定 (史跡)	井上本家から 30m ほど離れた場所に位置していたが、旧邸の母屋は伊豆近代文学博物館の横に移築され、中に入って見学することもできる。薬窓があるなど医者の家らしい佇まいを伝える造りとなっている。井上靖の『しろばんば』に登場する。	伊豆市
④	かみ　いえ　いのうえほんけ 上の家（井上本家）	未指定 (建造物)	井上靖の母の実家。祖父文次は、川端の囲碁仲間で、川端も訪れていた。井上靖の『しろばんば』に登場する。	伊豆市
⑤	ゆみち 湯道	未指定 (史跡)	地元の人が共同湯へ通う道。少年時代を過ごした井上靖や、湯ヶ島を訪れた川端はじめ多くの文士もここを通って旅館などを行き来した。	伊豆市
⑥	おどりこほどう 踊子歩道	未指定 (史跡)	踊子一行が歩いた道。三島大社前で東海道と分かれて伊豆半島を縦断し下田を結ぶ下田街道の一部分。浄蓮の滝から旧天城トンネルを経て湯ヶ野温泉へ続く道（18.5 キロ）は、今なお小説に登場する自然や風景が残り、ハイキングコースとして整備されている。 　道中には、『伊豆の踊子』にちなんだ「踊子橋」（伊豆市）や、石川さゆりのヒット曲「天城越え」の歌詞にも登場する「寒天橋」（河津町）がある。	伊豆市 河津町
⑦	じょうれん　たき 浄 蓮 の 滝	未指定 (名勝)	伊豆を代表する滝で、川端も訪れている。文学作品の舞台として登場する。伊豆の踊子像が建てられており、踊子歩道の起終点になっている。	伊豆市

番号	ふりがな 文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在
⑧	いずきんだいぶんがくはくぶつかん 伊豆近代文学博物館 しょぞうしりょう 所蔵資料	未指定 （美術工芸品）	川端や井上など伊豆の文学に関係する文人約 120 名の資料などが展示保管されている。川端や井上が執筆した生原稿なども実際に見ることができる。	伊豆市
⑨	なめさわけいこく 滑沢渓谷	未指定 （名勝）	天城山系を源とする清流が、安山岩の一枚岩の上を侵食しながら流れている。井上靖の処女小説『猟銃』の舞台になった場所。	伊豆市
⑩	あまぎ　たろうすぎ 天城の太郎杉	県指定 （天然記念物）	天城山中で最大の巨木。井上靖の処女小説『猟銃』の舞台になった滑沢渓谷内に聳える。	伊豆市
⑪	ぶんがくひ 文学碑	未指定 （史跡）	文人墨客が訪れた記念として、踊子歩道を中心に建立されている。 踊子歩道沿いには、川端の『伊豆の踊子』⑪-1 があり、湯ヶ島の西平地区には、梶井基次郎文学碑⑪-2、福田家にも川端康成の文学碑⑪-3 がある。 このほか、伊豆半島各地では、坪内逍遥、木下杢太郎、坂口安吾、尾崎士郎、与謝野寛・晶子夫妻など多数に渡る文学碑がある。	伊豆市 河津町
⑫	きゅうあまぎ 旧天城トンネル （天城山隧道）	国重文 （建造物）	明治 38 年通行開始。全長 446m の石積みトンネル。北伊豆と南伊豆をつなぎ、天城越えの難所が解消された。 学生川端と踊子一行も通っており、『伊豆の踊子』の物語はこの峠から始まる。井上靖の『しろばんば』など多くの小説に登場する。	伊豆市 河津町
⑬	にかいだる 二階滝	未指定 （名勝）	踊子歩道の寒天橋のすぐ下にある二階滝は高さ 20m の名瀑。真夏でもとても涼しく、秋には紅葉がきれいなところでもある。	河津町
⑭	ひらなめ　たき 平滑の滝	未指定 （名勝）	踊子歩道沿いにある幅 20m、高さ 4m の滝で、大きな 1 枚岩を滑り落ちる様から名付けられた滝。	河津町
⑮	かわづななだる 河津七滝	未指定 （名勝）	河津地方の方言で滝を「タル」と呼ぶ。踊子歩道沿い河津川の 1.5 km の間に点在する 7 つの滝の総称。小説の舞台にもなっており、初景滝には「踊子と私」のブロンズ像がある。	河津町

番号	ふりがな 文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
⑯	ふくだや 福田家	未指定 (建造物)	明治 12 年創業 『伊豆の踊子』執筆のきっかけとなった伊豆の旅行で３泊した宿で、作品にも登場する宿である。川端が泊まった部屋には直筆の色紙などが飾られ、誰でも泊まることができる。 　近くにある地元住民用の共同湯は『伊豆の踊子』にも登場する。 【訪れた文士】川端康成、中島敦、太宰治、島崎藤村、田山花袋、蒲原有明、梶井基次郎、深田久弥など	河津町
⑰	わさび田 ・ わさび料理	未指定 (文化的景観) ・ (無形民俗)	川端は伊豆を代表するものの一つとして「わさび」を挙げている。井上も伊豆のわさびを称賛する『わさび美し』が残されている。踊子歩道沿いには景観の美しいわさび田が点在している。	伊豆市 河津町
⑱	あゆりょうり 鮎 料 理	未指定 (無形民俗)	鮎釣りが盛んだった伊豆では、狩野川が鮎の友釣り発祥の地と言われている。川端も伊豆滞在中に夢中になったと後の作品で語られている。塩焼きのほか、甘露煮、干物などの料理がある。	伊豆市 河津町 伊豆の国市 熱海市 伊東市
⑲	きうんかく　きゅううちだのぶや 起雲閣（旧内田信也 およ　ね づかいちろうべってい 及び根津嘉一郎別邸	市指定 (建造物)	山本有三・志賀直哉・谷崎潤一郎の対談が行われた。他に三島由紀夫が新婚旅行で訪れ、舟橋聖一、武田泰淳などが執筆。 別館で太宰治が『人間失格』を執筆。	熱海市
⑳	そうししゃ 双柿舎	未指定 (建造物)	坪内逍遙の別荘で、敷地にある２本の柿の老木にちなんで命名された。 　『義時の最後』『桐一葉』などを執筆。	熱海市
㉑	あずさわけじんじゃおおくす 阿豆佐和気神社大クス きのみやじんじゃおおくす （来宮神社大クス）	国指定 (天然記念物)	坪内逍遙が『役の行者』の着想を得た場所。	熱海市
㉒	のむらじんがいそう 野村塵外荘 【非公開】	未指定 (建造物)	高山樗牛が滞在、「塵外」は樗牛の手紙から名付けられた。	熱海市
㉓	はしりゆおんせんあと 走湯温泉跡	市指定 (史跡)	相模、源実朝など、多数の文人が訪れた走湯の源泉跡。	熱海市

番号	ふりがな 文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
㉔	いずさんじんじゃ　はしりゆごんげん 伊豆山神社（走湯権現） ・ いずさんきょうどしりょうかん 伊豆山郷土資料館	未指定 （史跡） ・ 県・市指定 （有形文化財）	源実朝を始め、多くの歴史上の人物が参詣した神社。 郷土資料館では、神社に関連する資料が実見できる。	熱海市
㉕	じっこくとうげ　ひがねさん 十国峠（日金山）	国登録 （記念物）	源実朝が初島を詠んだ歌が有名。太宰治『富嶽百景』、高山樗牛『わが袖の記』がここからの富士山の眺めを絶賛。	熱海市
㉖	いずながおかおんせん 伊豆長岡温泉 いづみそう荘	未指定 （建造物）	武者小路実篤「愛と死」執筆の宿 ※実篤が滞在した部屋が残る。	伊豆の国市
㉗	きのしたもくたろうきねんかん 木下杢太郎記念館 きのしたもくたろうせいか 木下杢太郎生家	【記念館】 国登録 （建造物） ・ 【生家】 市指定 （史跡）	北原白秋や吉井勇らと深い交流のあった木下杢太郎の生家。「伊豆伊東」、「海の入日」など伊東を題材にした作品を残し、伊東小学校の校歌を作詞した。	伊東市
㉘	あらいりょかん 新井旅館	国登録 （建造物）	芥川龍之介が心身の疲労を癒すために滞在。風呂嫌いの芥川がお薦めしたお風呂が現在も入浴できる。同時期に泉鏡花夫妻も同宿していた。	伊豆市
㉙	なつめそうせききねんかん 夏目漱石記念館 しゅぜんじにじ　さとない （修善寺虹の郷内）	未指定 （建造物）	胃かいようの転地療養のため、菊屋に滞在。滞在していた部屋（一部分）は現在「虹の郷」に移築されて、「漱石庵」として公開されている。	伊豆市

構成文化財の写真一覧

① 湯本館

川端が滞在した部屋「川端さん」

川端が座って踊子を眺めた階段

② 落合樓

落合樓本館

③ 井上靖旧邸跡

公園整備された井上靖旧邸跡

昭和の森へ移築された井上靖旧居

④ 上の家（井上本家）

⑤ 湯道

⑥ 踊子歩道

雨上がりの踊子歩道（伊豆市）

踊子橋

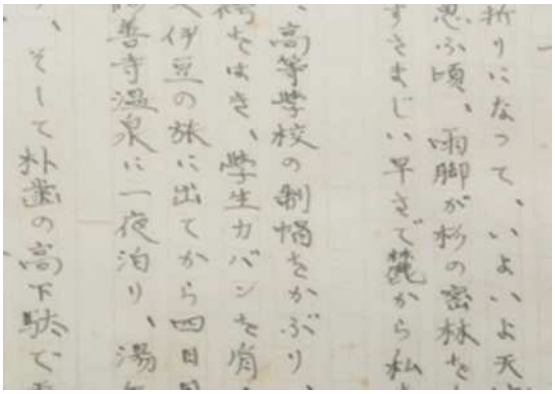
寒天橋

整備された踊子歩道（河津町）

⑦ 浄蓮の滝

⑨ 滑沢渓谷

⑧ 伊豆近代文学博物館所蔵資料



川端直筆原稿

展示の様子

⑩ 天城の太郎杉

⑪-1　文学碑

踊子歩道沿いの川端康成文学碑（伊豆市）

⑪-2

川端が書いた梶井基次郎文学碑（伊豆市）

⑪-3

ミス踊り子と福田家の川端康成文学碑

⑫　旧天城トンネル

踊子モデルと旧天城トンネル

石積みが残る旧天城トンネル内

⑬ 二階滝

⑭ 平滑の滝

⑮ 河津七滝

七滝のうち初景滝と踊子像

⑯ 福田家

川端が滞在した部屋

⑰　わさび田・わさび料理

浄蓮の滝とわさび田

伊豆のわさび

⑱　鮎料理

鮎の干物

獲れたての鮎

⑲ 起雲閣（旧内田信也及び根津嘉一郎別邸

⑳ 双柿舎

㉑ 阿豆佐和気神社大クス（来宮神社大クス）

㉓ 走湯温泉跡

㉒ 野村塵外荘

㉔ 走湯権現・伊豆山郷土資料館

㉕ 十国峠（日金山）

㉖-1 伊豆長岡温泉いづみ荘

武者小路実篤文学館（いづみ荘 HP から引用）

㉗ 木下杢太郎記念館

㉖-2 伊豆長岡温泉いづみ荘

実篤の間（いづみ荘 HP から引用）

㉘ 新井旅館

㉙ 夏目漱石記念館（修善寺虹の郷内）